

いけない。そして、ラジオにとって必要なのは『偉大なるマンネリ』なんです。送り側が飽きないのが大事。自分が飽きていると、それがリスナーに確実に伝わり、離れてしまいます。僕はそれらを口を酸っぱくして後輩に話しています。

● コミュニティFMのあり方

今日、大手のFMやAMのラジオ局があり、コミュニティFMがあり、この瞬間でもたくさんの放送が行われています。そこで僕は他局と差別化を図るべく、自分の番組では限りなく古い曲、いわゆる懐メロをかけています。

新曲ばかりを流していたら他の放送局にかなわないですよ。コミュニティFMは制作費がほとんど無に近い状態で運営しているので、人手にも音源にも限りがあります。同じ時間に大きな局のようにたくさんのスタッフの元で放送している番組にはかなわないんです。

“ラジオ”という土俵でありながら、お金のかけ具合は大相撲と町内相撲ぐらい違う。でも、相撲は相撲なんです。だから、差別化のために僕はあえて古い曲をかけるんです。怒られるかもしれないけど、コミュニティFMってジジババのラジオではないかと(笑)。新しいことをやらなくていいと思うんですよ。

ここは地元密着で古い曲が流れていていい局なんです。JFNやAMラジオ局では考えられないような過去のヒット曲をかける。江東区のこのエリアの土地柄もあるかもしれませんが、中高年齢層で演歌好きのリスナーが多いんです。

● ラジオは語りかけるもの

僕がニッポン放送にいた頃は、番組が庶民的な作りでした。でも今のラジオ局は違いますよね。常に最新でパッケージされ、リスナーとの距離感が感じられます。ラジオを聴くスタイルが生活から遠ざかっている時代です。

昔、オールナイトニッポンで僕らは若者のスタイル、『深夜のながら族』を作り出しました。でも、今はレインボータウンFMのリスナーである、商工関係者が『ながら族』になってくれている。『昼間のながら族』を作るためには時代と逆行し



[写真3-2] いつもボールペンを持ち歩いて、身近な話題を書き留める

ていていいんです。

ラジオは語りかけてくるもの。一対一なんです。電話で話しているのと同じ感覚です。昔はラジオの前に何人も人が集まって聴いていた。今は考えられないですね。現代は車内やイヤホンで聞いていて、一人で聴く状態なんです。だからこそ、語りかけなくてははいけない。限りなく噛み砕き、話すんです。

またラジオはエッセイだと思っています。ひとつひとつのコーナーが独立しているべきですし、2時間の番組なら二つくらいは「なるほどな」と思ってもらえるシーンを作らなくてははいけないと。大手のラジオ局よりも、より面白いのがコミュニティFM。経験次第で大手局へのステップアップにもなると思います。



[写真3-3] 「限りなく噛み砕き、話すんです」。語りかけの極意でDJを進める白須さん